

覚者(ブツダ)の問い

あなたは、今、独り居るであろうか。あらゆるものから離れ、あらゆるひとから離れ、あらゆる思考や追求から離れて、自分だけで独りきりになっているだろうか。

孤立ではなく、孤独に夢想や幻想にふけるのではなく、ただ、離れ、自分自身の想いや思考や感情の雑念がすっかり止み、極めて明晰でクリアーな心境、完全に独りきりになっているだろうか。

自他の内外で生ずるすべての事象をあるがままに観察し、それらから、すっかり離れ（自由であるとき）、まったくの独りであり、その静寂そのものが、たとえようもない花となり、たとえようもない光となり、思考では測ることのできないもの、時間のないものとなる。あなたは、今、独り居るであろうか。

そのような、いま、独り居る沈黙のなかに、不生の仏心（慈悲）が、はじめて姿をあらわす。

そう！ あえて不生の仏心（慈悲）をあらわそうとすることはしない。不生の仏心（慈悲）は、みずからあらわになるものだ。不生の仏心（慈悲）を意図してはならない。不生の仏心（慈悲）を意図的に行為であらわそうとしてはならない。不生の仏心（慈悲）は、おのずから発現するものだからだ。

不生の仏心（慈悲）がはたらくとき、そのはたらきには、どんな意図も、計らいも、駆け引きも、願いも、希望も、後悔もない。いかなる矛盾も超えている。あなたは、いま、独り居るであろうか。

そこには、人間が味わうみじめさや苦しきは、なにひとつない。

だから、ただ独り、不生の仏心（慈悲）ただひとつで居なさい。

不生の仏心（慈悲）は、あらゆるものの創造の生命源（みなもと）であり、エネルギーであり、動力（ちから）である。

だから、不生の仏心（慈悲）そのものでありなさい。

自分がとおりすぎていったもの（過去）を引きずることなかれ！ 過ぎてしまったものを引きずれば、そのとき、あなたの生は死んだも同然。記憶にしがみつぎ、こだわり、執着している限り、あなたは独り居ることはない。

執着やこだわりから自由になって、あなたは、今、まったくの独りで、居るであろうか。

不生の仏心（慈悲）というまったく愛の美しさのさなかに、そのまったく無垢のさなかに、その初々しさのさなかにあって、あなたは、今、まったくの独りで、居るであろうか。

すべては、けっして捉えることも、保持することもできない、全き不生、ほろびることのない創造の動的エネルギーによって、歴時的（刻々）に創造され、至福にして不生なる生命なのである。

萬歳楽山人 龍雲好久